

# マットスプレー施工手順 No. 1



## ① コンクリートの洗浄

良い仕上げには吹付け表面の下準備が極めて重要です。希塩酸洗剤（サンポール等）を原液～2倍にしてポリッシャー又はデッキブラシでこすり落とし高圧洗浄して下さい。新設コンクリートの場合は、打設後最低2週間以上養生し、ポリッシャーで入念に酸洗いして下さい。

※下地がアスファルトの場合は、タール剥離剤（ハイダイヤクリン）を適宜希釈し、デッキブラシでこするなどして脱脂洗浄します。



## ② プライマー塗布（ドライアウトを防ぐ下地処理）・養生

下地のコンクリートに余分な湿気がないか確かめ、特殊バインダー1に対して水3の割合でプライマーを作ります。プライマーは長毛のローラー及びハケを使って溶液を塗ります。コンクリートが非常に古かったり、浸透しやすいものであれば、プライマーを繰り返し（2～3回程度）行わなければならない場合もあります。アスファルト下地の場合、チャピンプンで噴霧すると効果的です。足跡がつかない程度に下地が乾いたら、腰の高さくらいまで、しっかり養生して下さい。



## ③ 薄吹きベーススプレー

「薄吹きベーススプレー」の吹付け材は、スプレーハードナー1袋（20kg）に対し、スプレーカラー1kg、バインダー3L、水3Lを投入し攪拌します。ホッパーガンの口は中目を使用して下さい。エアーを強めにして、薄く全体的に着色するような感覚で吹付けます。工場扇風機などで送風しておけば、短時間で乾燥します。乾燥後、ブロアーをかけるか、掃除機で吸い取ってください。厚くなった部分はこの時に砥石等で削っておきます。



## ④ ステンシル目地の貼り付け

柄のマッチングに気をつけながら仮敷きしてステンシル目地をカットします。中央から外へ向かって行か、一方から反対へ設置し、ステンシル目地同士はホッチキス等で止めます。両端から中へ向かって設置すると中央で浮きを作る原因になります。目地の端はガムテープで固定して下さい。どうしても浮いてしまう場合はブルタック等の粘着材を使用して下さい。ステンシル目地をカットし、ガムテープでつなぎ直して、たわみをなくす方法も有効的です。



## ⑤ 吹付け材を作る

スプレーカラー 1袋 (1kg)	+	スプレーハードナー 1袋 (20kg)	+	特殊バインダー 2.5L	+	水 2.5L
+						

水（調整用）  
冬季 0.5L ～ 夏季 1.0L

※スプレーカラーの添加量を減らした  
場合、色落ちの原因になります。

※下地がアスファルトの場合も同様の比率で吹き付け材を作して下さい。



## ⑥ スプレー吹き（1回目）

ホッパーガンの口は大目を使用し、吹付け面の距離は50cm程度で直角に吹付けて下さい。下地が完全に隠れるくらい吹付けます。スプレー吹き1回目と2回目の材料吹付け量の割合は約7：3とします。

※ホッパーガンを作業中に使用中断する場合は、その都度水洗いをして下さい。ホッパーガン内ですぐに固まってしまう。



## ⑦ スプレー吹き（2回目）&ヘッドカット

1回目の吹付け材が乾いたら2回目のスプレー吹きを行います。吹いた箇所はヘッドカットしていきます。（5～7割程度つぶす）

※冬季時など、乾きにくい状況の場合は「プロパンバーナー」を使い人工的に乾燥を促進させることがあります。（但し、お取り扱いには十分注意して下さい）

No.2へ

# マットスプレー施工手順 No. 2



## ⑧ 霜降り

霜降り用のネタを作成します。水の量をやや多めにする以外は、通常のネタと同じ割合で作ります。施工面に霜降りする前に、必ず**試し吹き**をして霜の量、大きさ、硬さを確認して下さい。

ホッパーガンの口を**中目**にし、通常時よりも**高い位置**から細かい粒子を飛ばします。霜降りをすることにより、完成後、汚れを目立たなくすることが出来ますので、必ず行って下さい。



## ⑨ ステンシル目地はがし

歩いても足跡がつかない程度に固まったら、ステンシル目地をはがします。ステンシル目地の一部を折り曲げて上に乗った材料がパラパラと崩れる程度が目安です。タイミングが早すぎると模様が欠けますので、吹付けが厚い場合は特に乾燥具合を入念に確認してからのはがして下さい。万一欠けが生じた場合は、吹付け時と同じ配合で練った材料をコテやハケで塗って補修します。



## ⑩ 清掃&補修

ステンシル目地をはがしたら、余分な粉やかけらを掃除機、ブロワー等を使い除去します。ステンシル目地の下に付いてしまったネタは、**マイナスドライバー**や小さいスクレーパーで丁寧に取り除き、タッチアップして下さい。たわし等で細かなケイ砂の飛散を落とし、ブルタックを使用した場合は確実に除去して下さい。



## ⑪ 上塗シーラー塗布（1回目）

1回目の上塗シーラーは浸透を考慮して**多めに塗ります**。吹付けた表面の**凸凹の奥まで確実に**上塗シーラーを行き渡らせて下さい。

端部は初めにハケで塗っておき、残りを長毛のローラーで塗っていきます。

※特に粒径の大きいアスファルト下地の場合はメンテナンス上、多く塗ることが大変重要です。但し、上塗シーラーが溜まると模様になって残りますので注意します。



## ⑫ ティント着色

シーラーティント 小スプーン1杯	+	上塗シーラー 300ml	+	ソルベント 100ml～200ml
---------------------	---	-----------------	---	----------------------

上記の配合を参考に「濃さ」、「塗りやすさ」を考慮しながらティント液を作成し、ハケで塗っていきます。



## ⑬ 上塗シーラー塗布（2回目）

2回目の上塗シーラーは表面に確実に塗布して下さい。



## ⑭ 完成

施工完了後、翌日から人が歩くことが出来ます。

車は夏時期で**中3日**、冬時期で**中5日**程度の養生期間が必要となります。

日々のメンテナンスは必要ありません。一般の住宅駐車場、アパートのエントランスなどは、**3～5年に1回程度**「高圧洗浄」、「表面保護材（上塗シーラー等）を塗布」しますと、**施工時の状態**に近い輝きに戻ってきます。